

岡山NPOセンターとのレジリエンスな岡山の構築に向けたパートナーシップ締結

損害保険ジャパン株式会社（取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン」）は、岡山NPOセンター（代表理事：石原 達也）および、災害支援ネットワークおかやま[※]が提供する、西日本豪雨の経験から生まれた被災地に必要な物資の調整システム『できるかもリスト』の普及促進によるレジリエンスな岡山の構築に向け、パートナーシップを締結しましたのでお知らせします。

※災害支援ネットワークおかやまとは、2018年の西日本豪雨の際に立ち上がった災害支援に取り組むNPO・企業士業専門家などの岡山県内唯一の民間組織ネットワーク。

1. 背景・目的

近年、気候変動等による影響で台風や豪雨などの災害が激甚化し、日本社会にとって「水災害」は大きな脅威となっており、保険会社の経営への影響も深刻化しています。

損保ジャパンは、2021年度からスタートしている中期経営計画において、SDGsを経営の基盤に位置づけ、「安心・安全・健康のテーマパーク」により、あらゆる人が自分らしい人生を健康で豊かに楽しむことのできる社会を実現するという「SOMPOのパーパス」実現に向けて、全国の営業・保険金サービス拠点や代理店ネットワークを活用し、各地域に根差した取り組みを実施しています。

今般、災害発生時に被災者の方に1日でも早く『日常』を取り戻していただく一助になればとの思いから、岡山NPOセンターとパートナーシップを締結しました。

2. 『できるかもリスト』の概要

『できるかもリスト』とは、2018年に発生した西日本豪雨の際に経験した『困りごと』を解消するために開発した、災害支援ネットワークおかやまが提供する物資の調整を行うWEBシステムです。

災害発生時に提供支援可能な物品などをあらかじめリスト化されたカタログから選択し、登録するという新たな仕組みにより、被災地にて最適な支援体制を構築することを目指しています。

従来、災害発生時に必要な物資の手配は、罹災後に必要となる物資を持っていそうな企業に向け、NPOの職員や支援団体が一から物資確保の交渉、手配等を行っていましたが、この仕組みを活用することで、『あらかじめ可能な範囲で物資提供の約束（WEBサイトへの登録）』が可能となり、事前に登録されたリストから選定することが可能となるため、支援物資確保のスピードが格段に上がることが期待されます。また、それだけでなく、必要なものを必要な分だけタイムリーに現地で手配することが可能になるため、避難所運営の効率化も見込まれます。

<現状>



<できるかもリストを活用した場合>



<できるかもリストの画面イメージ>



(注) カタログは一部抜粋です。

3. 今後の取組みについて

損保ジャパンと岡山NPOセンターは、損保ジャパンの代理店ネットワークを活用し、パートナー企業の登録を加速させていただけにとどまらず、本活動を全国に展開していくことで、近年増加し続けている自然災害に対する防災・減災の観点で具体的な対策を講じ、住み続けられるまちづくりに一層貢献していきます。さらに、これまでのCSRの取り組みを通じて培ったNPOとのパートナーシップを軸に、各地域で保険の枠組を超えた独自の社会価値を創出し、SDGsの取組み加速と「安心・安全・健康」な社会の実現を目指してまいります。

【参考】

災害支援ネットワークおokayamaの概要



事業	評議員
1 災害支援に関する情報共有会議の開催	岡山県（県民生活部県民生活交通課）
2 災害支援に関する官民連携	岡山市（市民協働局市民協働企画総務課）
3 災害支援に関する多様な主体による協働の創出支援	倉敷市（企画財政局市民活動推進課）
4 災害支援に関する資金支援や物資支援の援助	瀬戸内市（総務部危機管理課）
5 災害ボランティアセンター等のボランティアコーディネート支援	
6 災害支援に関する啓発や研修、人材及び組織育成	
7 災害支援に関する提言	
8 その他、目的達成のために必要な事業	
	事務局
	特定非営利活動法人岡山NPOセンター

以上

【別紙】できるかもリスト普及促進チラシ

被災者のために何かしたい！
とお考えの企業様へ

〇〇が
足りない！



被災者の
を聞いてから手配してたら
間に合わない！

※詳しくはWEBサイトをご覧ください。



近年、多発する水害を中心とした自然災害。そこで避難指示を受けた人が集まる避難所などでは刻一刻と状況が変化し、SNSなどで被災者が呼びかけた支援物資を届けた頃には状況が変わっていることも珍しくありません。「被災者のために何かできれば」とせっかく届けた物資が無駄になったり、酷い時には避難所の場所や時間を奪うマイナスな物にもなりかねません。



では何が必要なのか？
どうすればいいのか？

・・・そこで

あなたの物資をベストタイミングで活かすために
災害支援団体によるコーディネートシステムに
自社提供できる商品・物資を登録しませんか？



できるかもリストのご登録は
こちらへアクセス！↓↓↓



© JAPAN-DA

ニーズ
カタログ

できるかもリスト

西日本豪雨の経験から生まれた被災地に必要な物資の調整システム

<企画・運営>

災害支援ネットワークおかやま



<協力>



損保ジャパン

SOMPO Innovation for Wellbeing

ニーズ
カタログ

西日本豪雨の経験から生まれた被災地に必要な物資の調整システム

できるかもリスト の仕組み

①登録

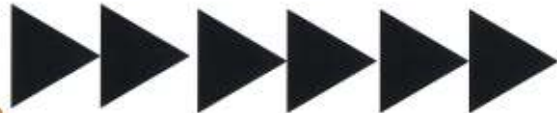


ニーズカタログ

西日本豪雨などの過去の災害支援の経験から必要となる物資をカタログにしたもの

できるかもリスト登録システム (WEB)

<https://smart-supply.org/catalog/drafts/seeds>



ニーズカタログに合致する貴社の寄付できる商品を事前に「できるかもリスト」として登録



②マッチング

© JAPAN-DA



③物資支援

マッチングした物資を必要とされる避難所などの現場にお届けいただき、必要なものを必要な分だけ支援いただきます。

発災したら災害支援ネットワークおかやまや各地の全国災害ボランティアネットワーク (JVOAD) などに登録する支援団体が現地に入り、必要な物資情報をリアルタイムで上げ、それを「できるかもリスト」と照合してマッチングします。

『災害支援ネットワークおかやま』とは？



2018年の西日本豪雨の際に立ち上がった災害支援に取り組むNPO・企業士業専門家などの岡山県内唯一の民間組織のネットワーク。県内自治体も評議員として関わっている。倉敷市真備の避難所やボランティアセンターの支援、まびシェアの開設、岡山市内の在宅避難者調査などにも取り組む。災害以降は県内外の災害支援に取り組むほか、佐賀県の災害支援ネットワークとの協定や災害支援システムの開発を全国組織と行うなど、全国でも先駆的な取り組みを展開。事務局はNPO法人岡山NPOセンターが努めている。